

し、あわて床屋〜待ちぼうけ (中林編)。
【スペイン語の部 (日本語訳: 又吉)】又
吉康之/「ブラテロと私」〜朗読とギ
ターのために〜 (C=テデスコ、ヒメネス
作詞)、伊藤芳枝/El Pozo (井戸)、町
井日出子/Gorriones (すずめたち)、又
吉康之/ソナタK.11 (スカララッティ〜
セゴビア)。

(文化・芸術・まちづくりの会 飯塚)

関西

◆ DEE MUSIC 春期発表会

DEE MUSIC主催の平成20年春期発表会が5月11日、名古屋市東部日進市にある山のホールで開催された。このホールの特徴はなんといっても響きの良さ、また80席ほどのギターに最適なホールである。しかもホール目の前では木々や山水、鳥の声などに接することができ、前日に降っていた雨も上がり、素晴らしい環境の中で開催された。交通アクセスが良いとはいえない中、例年にも増して来場者が多かったこともあり良い緊張の中、講師大矢のナビゲートで曲目、自己紹介をしながら演奏を披露した。リハーサルでは緊張で手が震えてうまく演奏できない演奏者もいたが、本番は緊張より“思い”が優ったのか集中した演奏ができたようで、演奏後は本人も満足げであった。発表会締めは講師の大矢修三のソロで、もしも皆があなたと同じだったなら (ジ

ョビン〜鈴木大介)、シンプル・エチュード (ブローウェル) より第1、2、3、5、6、7、18番が演奏された。また終演後の打ち上げには製作家の加納木魂にも同席いただき、木材のことなど楽器製作の貴重な意見を聞くことができ、参加者にとっては充実な1日であったようだ。秋には11月15日、名古屋市東文化小劇場にて秋期発表会が予定されている。プログラムは以下の通り。

【第1部】練習曲Op.148-3第1楽章、第2楽章 (カルツリ)、舟歌 (コスト)、ロマンス (メルツ)、ノクターン (ヘンツェ)、練習曲Op.10-3 (シヨパン〜江部賢一)、オーラ・リー (プルトン〜竹内永和)、前奏曲第11番 (タレガ)、盗賊の歌 (リョベート)、やってみましょうOp.45-3 (ソル)、練習曲Op.60-18 (カルカッシ)、練習曲第11番 (ヴィラ=ロボス)、【第2部】ロマンス (キューフナー)、練習曲Op.31-1、3つの二重奏Op.55-2 (ソル)、ひまわり (マンシーニ〜渡邊なつ実)、フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン (ハワード〜渡邊なつ実)、春の野を行く (村松 健〜柴 信次)、練習曲Op.27-3、6、練習曲Op.8、11、12 (カルツリ)、熊蜂 (ブジョール)、パヴァーヌ (サンズ)、3つの協奏風ポロネーズよりOp.137-1 (ジュリアーニ)。

(DEE MUSIC)

◆ 第8回クラシック・ギター合同発表会

京都府向日市は、京都盆地の南西端に位置し、市外東方には桂川が流れる町で、“むこうまち”といったほうが馴染みのある土地。入梅間もない6月8日、向日市民

会館でギタークラブ「ソレイユ」主催、高槻ギタークラブ、西京都ギタートリオおよびギターサークル「ラグリマ」の4グループ合同の発表会が開催された。演奏者と曲目は、次の通り。

【第1部 独奏・重奏】浅田弘/月光 (ソル)、功刀綾子/11月のある日 (ブローウェル)、一色正典/「魔女の宅急便」より海に見える街 (久石 譲)、前田正夫、堺 陽子、林田憲治/少年時代 (井上陽水)、高橋祥高/雨だれ (リンゼイ)、大西和子/舟歌 (コスト)、谷越俊章/ノクターン (ヘンツェ)、神藤久壽美、山本一人/アンクラー・ジュマンからカンタービレ (ソル)、堺 陽子/マズルカ・ショール (ヴィラ=ロボス)、石川正光/ラグリマ (タレガ)、山岡陽子/ロマンス (メルツ)、田村幸司、白山幸子/月光 (ソル〜莊村清志)、酒匂景一/練習曲 (カーノ)、田代重治/涙のワルツ、小さな天使へ (藤井敬吾)、関 晶子/ヴィヴァルディの四季“冬”より冬の炉端、田村幸司/プレリュードとバレット (ポンセ)、建口静雄/練習曲No.20 (ソル)、山岡陽子、窪田敬子、前田定子、河野征子/G線上のアリア (バッハ〜藤井敬吾)、前田正夫/タンゴ・アン・スカイ (ディアンズ)、林田憲治/アランプラの思い出 (タレガ)、山本一人/ヘンデルの主題による変奏曲より (ハリス)、功刀綾子、早間 慧/二重奏Op.55-1 (ソル)、功刀綾子、高橋祥高/アルビノーニのアダージョ (アルビノーニ)、早間 慧、高橋祥高/愛の夢 (リスト)、功刀綾子、高橋祥高、早間 慧/真夜中のギター (河村利夫)、夏の思い出 (中田喜直)、【第2部 合奏】高槻ギタークラブ合奏/ハイ・ジュード、イ



DEE MUSIC 2008年春期発表会



「ソレイユ」、「ラグリマ」の合同発表会

エスタデイ (レノン&マッカートニー～永田参男)、ソレイユ&高槻ギタークラブ 合同合奏/早春賦 (中田 章～藤井敬吾)、夏の思い出 (中田喜直～藤井敬吾)、ギタークラブソレイユ合奏/ちいさい秋みつけた、雪の降る街を (中田喜直～藤井敬吾)、サンタ・ルチア、オー・ソレ・ミオ (ナポリ民謡～藤井敬吾)【第3部 独奏・二重奏】永田参男/サンバ (藤井敬吾)、藤井敬吾、永田参男/セレナーデよりフィナーレ (カルッリ)、ムーンライト・セレナーデ (ミラー)、アランフエス協奏曲より第2楽章アダージョ (ロドリゴ)、禁じられた遊び (作者不詳)。

藤井敬吾は、“簡単な曲を楽しく”の方針でギタークラブ「ソレイユ」を指導しているそうだ。藤井先生の教えを受けた永田参男も、高槻ギタークラブを昨年より指導している。指導は簡単ではないと思うが、確かにメンバーは楽しんで演奏していると感じた。今回の発表会では合奏以外に独奏や重奏もあり、合奏とは違った緊張感の中での演奏を楽しんでいたようだ。20名あまりの合奏は、ギターとは思えないような重厚な響きを作っていた。第3部の藤井先生と永田先生の演奏の後、ソレイユ代表で今回の司会を務めた建口は「師匠の演奏に感動すると共に、ちょっとくやしい」と、今回の合同発表会を締めくくった。演奏を「楽しむ」ためには、「くやしい」という向上心も少しは必要なのだろう。 (平田健二)

◆10弦ギターとチェンバロのジョイント・コンサート

5月31日、名古屋の中心楽にて10弦ギターとチェンバロのジョイント・コンサート～甘美なる王宮の響きが今甦る～岩永善信 (10弦ギター) 鈴木美香 (チェンバロ) のコンサートが宗次ホール主催で開催された。昨年11月のギター・リサイタルに続き2回目のコンサートである。今回の企画は名古屋初演、前半は、バロック舞曲のスタイルに近代フランス音楽の香りを添えた8つの小品からなる宮廷の音楽 (タンスマン) より6曲を演奏した。続いてチェンバロのソロにより、新クラヴサン組曲集より (ラモー)。前半最後の曲はギターとチェンバロのデュオ・コンチェルトアンテ (ドッジソン)、この曲はドラマティックな対話やテクニックの競い合いが展開されめったに演奏されることのない作品だが、研ぎ澄まされた感性と楽器の粋を越えたダイナミックで豊かな響きに観客は魅了された。後半は岩永氏のソロ演奏により、エピローグ、東洋の行進曲、昔話、スペイン舞曲第6番 (グラナドス)。ギターの持つスペインの情緒とピアノが持つダイナミックな音響の両方を実現した素晴らしい演奏であった。最後はギターとチェンバロのためのデュオ、ニ長調G.448「ファンダンゴ付き」(ポッケリーニ)。今回はギタリストの川湯 誠の編曲により3楽章が演奏された。

第3回目の宗次ホール主催コンサート、岩永善信の演奏は11月9日予定。

(大野正子)

◆シンガポールとの交流会

5月29日、大阪音楽大学ミレニアム・ホールにてシンガポールのVICTORIA JUNIOR COLLEGEギター合奏団と大阪音楽大学ギター専攻生との合同で国際交流会が開かれた。VJCの合奏団はシンガポール国内で数々の賞を得ている団体で、日本で言えば高校と短大の年代になる。第1部では個人レッスンが公開で行なわれた。第2部はVJCの合奏でアルベニス作曲の〈コルドバ〉が演奏され大阪音楽大学教員の藤井敬吾が指導した。第3部では藤井敬吾作曲〈シャボン玉の主題による変奏曲〉を合同練習した。その後、大阪音楽大学の在校生と卒業生で藤井敬吾作曲〈トッカータ〉が演奏され終了した。 (藤井敬吾)



VJCとの合同練習で指導をする藤井敬吾 (写真:大阪音楽大学提供)



左:岩永善信、右:鈴木美香 (チェンバロ)



VJC、大阪音楽大学の合同合奏 (写真:大阪音楽大学提供)